



第28号
平成15年
2003

会 報

にしきうら



第6回体育祭
(平成15年10月10日)



高知県立須崎工業高等学校同窓会

目 次

ご 挨拶……………	同窓会 会長 森岡 清…	1
ご 挨拶……………	学校長 橋本 俊彦…	2
学校の近況報告……………	教 頭 桑名 隆…	3
進路指導部より……………	原 仁…	4
京滋支部だより 「滋賀県唯一の村」朽木村での行事……………	桑名 傳…	5
大阪支部だより 大阪支部の近況……………	大崎 光春…	6
中京支部だより 中京支部の行事……………	沖 良二…	8
関東支部だより 関東支部同窓会総会のお知らせ……………	茨木三智夫…	8
幡多支部だより 年降れば母校恋し……………	松田 建一…	10
高知支部だより 高知支部の近況……………	岡林 幸保…	11
「恩師・田原先生の逝去に思う」……………	林 和夫…	12
事務局便り……………		14
平成14年度決算並びに平成15年度予算……………		15
終身会費納入者(1年間分…平成14年10月から平成15年10月10日まで) …		16
平成15年度役員……………		17



ご挨拶

昭和二十六年機械科卒

同窓会会長 森岡 清

同窓会会員の皆様にはお変わりなくご活躍のことと拝察申し上げます。今年の夏は、冷夏と言われ天候不順の地方では何かと思惑の外れたところもあったかと存じますが、高知は八月に入っているものように暑い夏でした。

母校の方も校長先生をはじめとして、先生方の指導で生徒たちも頼もしく成長しています。生徒たちの各種の活躍や、近年特に困難と言われています卒業生の進路に関しても、就職、進学とそれぞれの希望に沿った進路選択が出来るなど、職業高校ならではの特徴を生かした学校運営がなされていると思います。それら学校の現状については、後ほど教頭先生のご報告に詳しく述べられています。

さて、そのような特徴ある我が母校ではありますが、このところの全国的な少子化の傾向は、高知県でも例外ではなく、新聞の報道による県教育委員会のデータによれば、今年三月の高知県高等学校の卒業生徒数は、平成元年のその六十四%にまで落ち込み、さらに今後の一〇年間で千人以上の減少が見込まれていて、約二六学級が消えるという計算になると報じています。これは最近における高等学校生徒数の激減を伝えているものです。

こうした状況から、統廃合による高等学校再編成の動きが活発に議論されています。私たちの母校で

ある須崎工業高校も、既に一時期に比べると学年当たり三学級が減少し、残りの三学級においても定員に満たない場合もあります。

この状況が一層深刻になれば、私たちの母校の存続にも関わりと危惧され、昨年のこの「にしきうら」のご挨拶でも、同窓会の皆様に学校近郊の中学生に対する母校への進学についてのPRをお願いしたことでした。

学校の置かれている現状は以上のように決して予断を許さないものですが、一方社会においては、長引く不況と高齢化・少子化というこれまでに経験のない状況が今後もなお続くと考えられています。特に、これまでの日本を支え、発展させてきた工業技術者については、不況による若手技術者の採用手控えから、後継者不足が予想され、このままでは日本の工業の将来に強い不安を感じざるをえません。

世界に冠たる日本の工業を支えてきたのは、何といても工業高校の出身者という自信と誇りを持っている私たちにとって、単に志願者が少ないからという理由だけで、工業高校が存廃問題の対象になるのは、日本の工業界の将来にとっても由々しきことであると思われまふ。

もちろん世の中は変化していますので、その変化に適合した対応は必要です。特に情報技術を中心とした製造工程の合理化の技術、それに、これまで工

業といえは、男性の職場というイメージでしたが、今や女性の進出は目覚しく、女子生徒に対する工業教育の重要性も従来とは比べ物にならないほどの期待をもたれています。また、工業の専門的な技術の幅も広がってきましたから（例えばサービス業における工業技術など）、そうした分野も広く工業教育の範疇に取り入れて、即戦力につながる専門的な教育を施すことも重要なことと思います。

学校当局も、そうした新しい工業高校への脱皮を真剣に考え、努力をされていますが、工業教育に関する情勢の変化は、まだ一般の人々には十分な理解を得られていないのではないのでしょうか？

いま、同窓会は、学校及びPTAと一緒に工業高校の新しい必要性と役割を、周囲の人々にPRしなければならぬと考えています。

諸兄におかれましても、母校の現状と工業教育の重要性を再認識されて、周囲の方々、或いは出身中学校への一層のPRを行い、母校への志願者の増加にご協力くださるようお願い申し上げます。

PRに必要な学校紹介のパンフレットなどは、母校同窓会事務局に申し込めば無料で配布されますので、ぜひご利用下さい。

最後に、社会情勢の厳しい折ではありますが、それぞれ分野での一層のご活躍を心からお祈り申し上げます。ご挨拶といたします。



ご挨拶

第十七代 学校長 橋本 俊彦

この夏は梅雨明けも遅く、冷夏の状況がしばらく続きました。八月の下旬辺りから猛烈な残暑の状態が続いておりましたが、最近やっと朝夕は秋の気配を感じる頃になりました。

同窓生の皆様におかれましては、ご健勝で過ごしのことと存じます。日ごろは、本校の教育活動にご支援ご協力をいただきまして、有り難うございます。

昭和十六年に創立された本校は、今年で六十二年を迎えたこととなります。科の変遷の概略について振り返ってみますと、機械科単科での創立でしたが、その後、昭和十九年には造船科増設、昭和二十四年には機械科二学級に増、昭和二十七年には電気通信科増設、昭和三十四年には化学工業科増設、昭和三十八年には電気科増設とだんだん規模の大きい工業高校になりました。昭和四十年には電気通信科を廃止し、電気科二学級となり、四科六学級で生徒総定員七百二十名規模の状態がしばらく続きました。しかし平成元年をピークに、中学卒業生が年々減少し、本校も、平成八年、九年とそれぞれ電気科、機械科を一学級減としております。平成十四年には電気科を電気情報科に改編、化学工業科が募集停止となりました。今年の県下中学卒業生は八千三百六十名で平成元年と比較しますと約五千名の減少となっております。

ります。今後この減少傾向は続き、平成二十四年にはさらに約一千名の減と予測されております。

今年度より県教育委員会は、県立高校の再編計画、学科改編等を所管する高等学校改革課という組織を立ちあげ、県下高等学校の再編に取りかかりました。高知県内の同窓生の皆様は新聞報道等でご存じと思いますが、大きく変化を求められている学校もあります。このような状況下、本校は男女共学の工業高校でありながら、男子校のイメージが強く、女子生徒の志願が非常に少ない現状です。そこで高等学校改革課から本校に對しまして女子中学生が興味関心のもてる科について検討しなさいとのお話があり、校内で委員会を組織し、現在検討中です。

このような大変な少子化のなか、本校としまして女子生徒確保を念頭におきながら、学校としての取り組み（学習指導、生活指導、進路指導等の充実、部活動の活性化、ものづくり指導、資格取得指導など）は勿論ですが、更に地域社会へのアピール、中学校等へ積極的な情報提供、密接な連携も必要です。それによって本校の最大の課題であります志願者の増加、生徒数確保に結びつけることです。

そして生徒を幅広い教育活動とおして、人材育成し、産業界へ送り出していくことが本校の使命です。いうまでもなく資源の乏しい日本がここまで発

展したのは、「ものづくり」を通して工業技術を支えた工業高校卒業生です。「ものづくり」は昔から我が国で脈々と受け継がれてきたもので、そこに精神的要素が加わって日本の文化の一つになっております。このことは今後共、大切にしていかなければならないことです。生徒に「ものづくり」を通して工業に関する知識・技術・技能の習得、創造性の育成は工業教育の使命です。また「ものづくり」に関わる者に男女の差はありません。最近では多くの女性が産業現場で活躍しているのを見聞します。男女を問わず多くの生徒が在籍し、益々活気ある学校になることを願っております。

生徒数が少ないと、選択履修制度や習熟度学習を維持することも困難です。いろいろな学校行事や部活動でも支障をきたします。高知県高校問題検討委員会の報告にもありますように、せめて一学年四学級の工業高校にの思いを強く持っております。少子化のなか、厳しい面もありますが、努力していきたいと思っております。

最後になりましたが、今後とも母校に對しまして暖かいご支援をお願いすると共に、同窓会の発展と皆様方のご活躍をお祈りいたします。

学校の近況報告

教頭 桑名 隆

須崎工業高校同窓生の皆様には益々ご清祥にてご活躍のことと存じます。また、日頃は母校並びに後進指導にご理解とご協力をいただき厚く感謝申し上げます。

平成十五年三月一日に行いました卒業式では、市川嘉彦須崎市教育長、森岡清同窓会会長、各中学校長、PTA役員をはじめ多数のご来賓の方々に参列していただきました。百十七名の生徒が卒業し新たに同窓会の一員となっておりますので、先輩諸氏には今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

教職員の人事異動

昨年度の人事異動と同様の規模で、十三名の教職員が転出され、十一名の教職員が転入いたしました。ご転出された教職員の益々のご健勝を願い、転入しました教職員一同も心機一転頑張っていきたいと思います。よろしく願います。

転出 岡崎 俊樹(数 学)

山下 順生(数 学)

大川 法由記(理 科)

千頭 啓介(英 語)

千谷 志保(英 語)

北山 隆文(保 体)

武田 綾(家 庭)

井上 日出男(機 械 科)

宮畑 豊(造 船 科)

転入

西村 孝昭(化学工業科)
武内 孝明(化学工業科)
公文 雄二(電気科)
安田 由紀(事務)
横山 直行(数 学)
濱崎 亜紀(理 科)
和田 卓義(英 語)
妙木 誠(英 語)
田所 伸一郎(保 体)
小川 佐帆(家 庭)
梅原 俊男(機 械 科)
乾 聡(造 船 科)
北代 知貴(電気情報科)
田中真智子(事務)
山岡 佳代(事務)

学科改編について

少子高齢化や情報化社会等、教育環境は大きな変革の時期となり、本校も学科改編により機械科三十五名、造船科十九名、電気情報科三十名の新生を迎え、生徒総数二百九十六名でスタートしました。平成十四年度から募集停止した化学工業科も、本年度最後の卒業生を送ることになりました。何とか全員揃って、有終の美を飾って欲しいと願っております。

生徒数296名 平成15年4月

	1 年	2 年	3 年
機 械 科	35	40	39
造 船 科	19	31	28
化学工業科			18
電 気 科			28
電気情報科	30	28	
計	84	99	113

生徒数確保と教育改革が叫ばれるなか、大幅な選

択制の導入など時代の変化や生徒のニーズに対応した教育を展開しなければなりません。同窓生の皆様方には今後ともご助言やご支援をお願いいたします。

学校行事・クラブ活動等

本年度、開校記念日の五月二十五日は日曜日で、開校記念行事は、二十七日に行いました。本校第二回生機械科卒業であります森岡清同窓会長より「工業技術を学んで」と題して記念講演を行っていただきました。数々の人生経験に基づき、技能オリンピック出場やバスケットボールと専門教科に明け暮れる高校の青春時代から、日銑工業株式会社、高知大学を経て須崎工業高校から教員生活が始まり、平成五年三月須崎工業高校で校長先生として退職するまで、幾多の工業技術の発展に尽力されてこられました。また、退職後も日本国際協力事業団(JICA)よりケニア共和国・ナイロビ市NYS技術学園の教員運営指導員として派遣され、技術指導をはじめ多大な貢献をされたことなど、ユーモアをまじえながら懇切丁寧にお話しいただき、同じ工業技術に関わっている後輩への思いがひしひしと伝わってくる講演でした。

昨年度学校長の強い願いのもと行われた校内ドラゴンカー大会も第二回大会を迎え、一学期末試験後の七月十六日に市役所職員・漁協関係者はじめ保護者等のご協力で行い、みごと三年機械科が優勝しました。昨年度から二年連続となり、益々のチームワークを出して体育祭等の学校行事での活躍が期待されます。今後この校内ドラゴンカー大会は、特色ある学校づくりと学校の伝統行事としての取り組みが考えられます。また、須崎市の恒例の事業とな

りましたドラゴンカヌー大会は七月二十七日に盛大に開催され、本校からも生徒チームとPTA・生徒会連合チームが参加し、汗まみれの健闘をしました。クラブ活動もますます盛んになっており、県体において空手道部は個人形の部で山本佳史君（三E）が第二位で全国総体出場・四国高校空手道選手権大会出場、同じく個人組手の部で横島和幸君（三M）がベスト8入りして四国高校空手道選手権大会に出場しました。復活なった相撲部では、石元勇次君（二M）が四国高校選手権大会出場・水泳平泳ぎ二百メートルの部で福井翼君（三C）が四国高校選手権大会に出場しました。山岳競技・フリースタイルクライミング部では、第六回高知スポーツクライミング競技大会兼国体予選少年の部で大野晃君（二E）が一位となっております。今後の活躍が期待されます。

そのほか野球部、ソフトボール部、卓球部やそのほかの部活動も毎日熱心に練習しており、今後の活躍が大いに期待されるところです。

この報告をお読みいただく頃には体育祭や技術競技大会も終わり、二学期も終盤になっている頃だと思いますが、同窓生の皆様方のご健勝をお祈りするとともに、引き続き本校へのご支援をお願い申し上げます。ご報告とさせていただきます。

進路指導部より

原 仁

本年度の進路指導部は原仁（部長 数学）、梅原俊男（就職 機械科）、横山直行（進学 数学）、藤岡常幸（三M主任 機械科）、西山庸一（三S主任 造船科）、岡本雅道（三C主任 化学工業科）、澤田典良（三E主任 電気科）、石元教夫（就職支援）の八名で担当しています。昨年度は九名で担当していました。生徒減少による教職員数削減により進路指導部も一名減となりました。多田玲子さんには

今まで同様に進路のお世話をいただいています。企業訪問を数多く行い求人依頼をお願いしてきましたが、求人状況は生徒にとって昨年同様厳しい状態が続く、九月十九日までに求人票の総数は、百四十三社（関東四十二社、東海九社、関西三十八社、中国その他二十七社、県内二十七社）です。今年は昨年と比べると就職希望者が多く、来春の卒業予定者一二二名中、九月中旬の第一次採用試験に応募した生徒は、六十七名です。昨年同様、事実上二回戦がない厳しい就職試験となっています。同窓会の皆様方の学校へまた後輩への変わらぬご支援をお願い申し上げます。

進路状況

○14年度都道府県別就職者数

関東	5	東京	3
		千葉	1
東海	3	愛知	3
関西	6	大阪	2
		京都	3
中国	6	岡山	2
		広島	4
四国	6	香川	3
		愛媛	3
県外計			25
県内			27

自衛隊の1名を除く。

○地域別就職者数

年度	10	11	12	13	14
県内	28	43	30	39	27
中・四国	14	15	14	15	12
大関	11	12	12	3	6
東海	9	8	5	8	3
関東	15	4	3	5	4

○本年度並びに過去3年間の求人状況（会社数）

	関東	東海	関西	中・四国	その他	県外合計	県内	合計
12年度	34	23	67	36	0	160	62	222
13年度	48	18	57	31	0	154	50	204
14年度	47	13	49	25	0	134	33	167
15年度	42	9	38	26	1	116	27	143

（H15年度は、9月19日現在の数です）

京滋支部だより

「滋賀県唯一の村」朽木村での行事

昭和三十三年機械科卒

桑名 傳

同窓会の皆さんこんにちは

京滋支部今年七月の行事は「にしきうら」に発表の通り「朽木村でキャンプ」を予定しておりました。

二月に入りまだ早いと思いますが、ホームページにアクセスのところ、六ヶ月前より受け付けとの事で、急ぎ管理事務所に問い合わせをしましたが既に予約で埋まって居ました。以後、支部長を始め関係者による打合せアンケートを行い、「朽木温泉とパーベキユー会食」と決定、日帰り行事にしました。

例年であれば、七月も二十日を過ぎると真夏の太陽がキラキラの季節ですが、今年は少し異常気象のようです。

暑からず、寒からず、の七月二十六日の行事には、JR守山駅に参加者十一名が集合し三台の車に分乗して朽木村へ向う。国道三六七号は安曇川（アド川）沿いに走ります。沿道には至る所にアジサイが咲き、そして杉木立の中をドライブして、最初の立寄り先朽木の名刹「曹洞宗 高厳山 興聖寺」へ。

当山は、近江源氏で近江守護佐々木信綱が、曹洞宗開祖道元禪師の奨めにより創建し以後七堂伽藍を擁し曹洞宗第三の古道場であったと言われます。

寺院にある木造釈迦如来坐像と縛り不動明王坐像は、国の重要文化財に指定されています。お寺の若い僧侶から説明を受け、接待のお茶を飲みながら暫し歴史の重さを感じました。山内には、国の名勝に

指定されている足利庭園（旧秀隣院庭園）があります。足利將軍義満が都での難を逃れ、朽木氏を頼りこの地で三年間滞在中に、將軍を慰めるために贈ったと言われます。庭園のすばらしさはよくよく分りませんが、往事が偲ばれました。

「グリーンパーク想いの森」（この公園の中に朽木温泉でんくうが有りパーベキユーガーデン等がある）には予定より一時間早く着きました。

到着後早速「朽木温泉でんくう」の看板を囲み記念写真をバチリ！

「朽木温泉でんくう」は、滋賀県では日帰り温泉の先駆的な温泉だと思います。現在は同様の温泉がちこちと出来た為、朽木温泉も増設工事を行っているようです。

一時間余りをフリータイムとし温泉に、また周辺を散策しミドリいっぱいの自然を満喫しました。特に「県立朽木いきものふれあいの里」方面に行ったグループは、吊橋がありその向うに広がる景色はとてすばらしかった、と大満足のようでした。

パーベキユーは十三時前から開始、冷たいビールで乾杯ですが、車を運転している三人の方々はノンアルコールで（味気ないでしょうが、云十万払う事を思えば・・・）乾杯。パーベキユーの量は多くもなく、少なくとも和気藹々のうちに全部平らげました。

「肉をこれほど食ったのは近頃ないね」と言うのは参加者全員が定年を過ぎた者ばかりでした。

十五時前パーベキユーを終わり温泉にゆつくりと浸かいたい方、また多方面に回りたい方等あるため現地解散となりました。帰りの車窓から安曇川の川原あちこちに四駆が入りテント張りの準備が見られま

した。これからこの村も一年で一番、若者とファミリーが集いにぎわう季節を迎えるだろうと思いいました。

「京滋支部だより

平成十六年行事案内」

一、定例総会と懇親の集い

日時：平成十六年六月二十六日（土）午後三時
場所：京都市中京区木屋町御池上 新はまむら
電話：075・2222・0057
会費：八、〇〇〇円

但し女性と三十歳以下の男性六、〇〇〇円
内容：総会終了後、初代支部長・広瀬顧問による
楽しい癒しのミニ講演と懇親の夕べ。

二、グラウンドゴルフ大会

日時：平成十六年四月二十五日（日）
午前九時五〇分JR草津線貴生川駅集合
（車の方は午前十二時二十分 会場）
場所：滋賀県甲賀郡水口町野州川GG場
会費：一、〇〇〇円（昼食は各自持参）
用具：お持ちでない方については幹事で準備

参考：老若男女、初心者も含めて誰でもが手軽に
楽しめるニュー・スポーツです。適度な運動量で、ゴルフ気分も味わえることから競技人口は短期間で爆発的に増えました。

三、ゴルフ大会

日時：平成十六年九月二十五日（土）

午前八時現地集合

場所：京都府宇治市、日清都カントリークラブ

(電動カート使用)

会費：五、〇〇〇円(賞品代、会費、写真代等)

プレー費：昼食付一、五〇〇〇円 各自支払い

四、金勝(こんぜ)アルプス、ハイキング

日時：平成十六年一月二十三日(土)

午前九時JR東海道線草津駅集合

会費：五、〇〇〇円(昼食は各自持参)

コースの説明：金勝アルプスは大阪市と栗東市、そして東は今年十一月実施の飯道山ハイキング会場となる信楽町、水口町にまたがる広大なハイキング場です。今回はその内で草津市から竜王山と鶏冠山に通じるファミリーコースを選びました。このコースは巨岩や奇岩が多く、又琵琶湖や比良山等も望める展望豊かな里山です。春は緑、秋は紅葉が美しく、清流のせせらぎや滝もあり、バラエティに富んだ五時間程の初心者コースです。

*参加の申込み方法

ハガキ又はファックスで、なるべく早く、遅くとも開催日の四十日前に左記事務局へ連絡してください。他支部の方でも歓迎です。

参加の申込を頂いた方には行事開催日の一ヶ月前に詳細案内状を送付します。都合で参加出来なくなった方はその時にお知らせください。

*参加申込み先

〒528-0049

滋賀県水口町貴生川610-16

電話・FAX 〇七四八-六二一四三二〇

橋田 昌和(京滋支部事務局)

大阪支部だより

大阪支部副支部長

昭和三十三年機械科卒

大崎光春

大阪支部同窓会の近況報告をいたします。永年支部長としてご指導くださった下村先生から電通科出身画伯「野並」先生にバトンタッチされ、初めての支部総会(平成十四年十一月九日)が大阪、天満の川沿い「大阪リバーサイドホテル」で母校の校長先生、同窓会会長、高知支部長、須崎支部、京滋支部からお客様をお迎えして楽しく開催されてから十一月で一年目を迎えようとしています。先輩・後輩の絆は三年間の学校生活で充分培われており母校愛は今更言うまでも無く力強いものを感じますし、この前的大阪サミットでは奥さんも同伴し一泊二日の自然散策とカラオケ、家族のふれあいで、四十数名の参加者を迎え二日間の「バスツアー」を行いました。還暦を体験された先輩諸氏もサラリーマンで現役の後輩も皆さん高校生に還りカラオケ、酒、ビールでの宴は初めて参加された奥さん方も楽しく充分満足されたとの事でした。

支部役員の悩みの種は、支部最近の傾向として若い後輩達が同窓会活動に積極的に参加する心意気が段々と小さくなり、先輩、後輩の絆も小さくなりつつあるように思います。ですから若い世代の人集めが難しくどのようにすれば魅力ある支部活動、気楽に参加できる支部活動、同県人としての地域愛活動、今失われつつある人間(学校)を中心とした人間愛、頼れる頼られる先輩後輩関係、等の活動の原点に返り平成十五年八月一日十四名の支部役員が集まり、

支部活動の現状について(支部会計状況、会員動静)、

等酒を酌み交わしながら話し合いをいたしました。

その結果次の事を計画しました。来年のことをい

えば鬼が笑うとよく言われますが「決めました」平成

十六年十一月六日(土)～七日(日)に「支部一泊

ツアー」を計画、同窓会員及び家族を含め沢山の参

加者を募集することになりました。行き先、仕事内

容は面白く、楽しく、皆さんが参加できるものを考

えています。

話は変わりますが、大阪支部新執行部役員を紹介

いたします。

「野並支部長」中心に新しい役員の参加により支部

活動もより活性化されることと思います。支部役員

(三役) 左記の皆さんです。

顧問 山田 豊(二十一年M)

下村 昇(二十四年M)

支部長 野並允温(三十年T)

副支部長 松村隆司(三十二年M)

大崎光春(三十二年M) (事務局局長兼務)

会 計 計 浜口 博(四十二年S)

西森廣利(四十三年C)

理事として十三名の総勢二十一名の役員、理事、

で構成されており、支部同窓生から親しまれ、頼ら

れ、気軽に相談できる須工卒業生の仲間としての大

阪支部となるように努めようとの「野並支部長」の

方針であります。こんな心意気で「来年の一泊ツアー」

を目指していますので「関西圏以外の皆さんも」お

おいに参加して下さい。お待ちしております。

一年間の大阪支部の近況報告でした。来年のツアー

がおおいに盛り上がります事を念じ筆を取ります。

須崎工業高等学校 同窓会 大阪支部役員名簿

平成14年11月9日

役 職	氏 名	卒年	科 別	郵便番号
顧 問	山田 豊	21	機 械	536-0008
顧 問	下村 昇	24	機 械	611-0024

支 部 長	野並 允温	30	電 通	566-0055
副支部長	松村 隆司	32	機 械	567-0894
副支部長 事務局長	大崎 光春	32	機 械	594-0013
会 計 計 事務局員	浜口 博	40	造 船	592-0003
会計監査 事務局員	浜崎 満良	40	電 通	560-0865
会計監査 事務局員	西森 廣利	43	化 学	567-0048

理 事	近森 久重	26	機 械	661-0013
〃	汲田 正一	26	機 械	661-0045
〃	山名潤治郎	27	機 械	589-0012
〃	竹下 哲夫	29	造 船	636-0142
〃	松本 真栄	29	造 船	573-0824
〃	藤本 武	30	機 械	572-0013
〃	能見 教男	30	電 通	560-0003
〃	西田 義照	31	電 通	634-0071
〃	山本 秀夫	31	電 通	656-0821
〃	長山 良彦	34	電 通	639-2164
〃	堅田 典男	40	化 学	651-1313
〃	広瀬 直記	43	化 学	559-0033
〃	井上 博	43	機 械	592-0003

中京支部だより

中京支部の行事

昭和二十九年機械科卒

沖 良二

中京支部で家族を含めた行事を計画し、真夏の八月十六日に開催しました。

昨年の総会後の方針に沿って、行事を通じて徐々に会員の輪を広げよう計画しました。

当初、御在所ハイキング(三重)とゴルフの案もありましたが、実行時の具体策になると、ハイキングコースや役員の配置方法など、解決すべき問題が多く、検討の結果リトルワールドに決定しました。

リトルワールドは岐阜県犬山市にあり、名古屋から約一時間。野外民族博物館の名前の通り、人類の誕生から世界の民族の生活文化と道具などを屋内展示。野外には世界の代表的な民家を移築・復元している常設展示場です。野外は一周二、五kmあり、民家では民族衣装を借りたり、食事やおみやげなどがあり、小さな世界一周を楽しむことができました。

今回は、お盆休みの後ということもあって、帰省のために参加できなかった会員も少なくなかったようです。約一九〇人の会員の内、七十四人から出欠回答がきました。今回は欠席なれど、次回は参加したい旨コメントも何人かあり、今後の行事計画に励みになる回答を頂きました。

中京支部の参加者は、五家族十二人で、インド料理を食べながら近況報告や郷土の話・高校時代の話に花が咲きました。

奥様の郷里からの帰りに二人で参加していただいた明神さん、郡上八幡で夜中まで踊ったの帰りの森



後列左より
明神夫人 (45M)
森岡輝雄 (46M)
沖越高志 (39M)

前列左より
明神聖嘉 (38M)
井上先生 (39M)
森岡廣實 (29S)
(敬称略)

岡さん、実家に帰省中の娘さんとお孫さんも一緒に参加された森岡さん。昔は親戚だったとかそうでないとか。同郷、同窓とは、いつでも距離や年齢を超越した不思議な絆を感じさせるものです。これから先、同窓会の参加者が増えていけば、もっと楽しく、もっと心安らく場を提供できると思います。会員のみならず、友人を誘い合っている参加をよろしく願います。次回は二〇〇四年二月頃の予定です。(紙面をお借りして参加者のみなさんの写真を掲載します)

今回の行事につき、森岡同窓会長から激励の書信をいただき、本部からは井上先生に参加をいただきました。ありがとうございます。みんな元気です。おたよりください。

関東支部だより

関東支部同窓会総会のお知らせ

昭和二十八年機械科卒

茨木 三智夫

須工を卒業して、神奈川県に住み、早四十一歳が過ぎようとしております。関東近辺には、昭和三十八年度卒業生が二十人近く在住しています。私が住んでいる神奈川県厚木市付近にも数人の同窓生が住んでおり、時々、ミニ同窓会を開催し、旧交を暖め合っております。

今回の関東支部便りには、同窓会会報「にしきうら」の紙面を借りて、「須工関東支部同窓会総会」の開催のお知らせを掲載させていただきます。

平成十一年七月にホテルヒルトン東京で、関東支部同窓会総会が開催され、十数年にわたり、役員を続けてこられた野瀬支部長他の役員が退任し、新役員として堀内支部長が選出され、その後、役員体制が決定しました。

早いもので、前回の同窓会から四年の歳月が過ぎましたが、関東支部同窓会総会の開催が延び延びになつており、同窓生の皆様方から、何時になつたら同窓会を開催するのと言う問合せが殺到いたしました。お礼の言葉をまず持ってお詫びいたしておきます。

同窓会の開催を楽しみにしておられる皆様方、大変お待たせいたしました。

次のとおり、須工関東支部同窓会総会を開催いたしますので、万障お繰り合わせのうえ、ご出席くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

日時 平成十六年二月二十一日(土)

受付 十五時～ 総会 十六時～十六時三十分
懇談 十六時三十分～十九時三十分
場所 スクワール麹町
JR四ツ谷駅(麹町口)下車 徒歩一分
〒102-0083 東京都千代田区麹町六-六
電話 03(3234) 8739

会費 男性10,000円 女性 7,000円
その他 同窓会本部、各支部及び須崎高校、高知工業高校、高知商業高校、清水高校等の同窓生の参加を予定しております。

今回の同窓会の開催にあたり、役員以外に卒業年度ごとに連絡員をお願いする予定です。役員から声がかかりましたら、同窓会を盛り上げるために、ぜひご協力ください。須工同窓生の皆様方がお互いに誘い合って、一人でも多くの同窓生がご出席くださることを役員一同、心からお待ちしております。

関東支部同窓会会員の皆様方には、九月六日(土)に支部役員総出で、開催通知の書類を送りました。お手元に書類が届いている方は、お早めにお申込みください。

なお、前回の開催から年月が経過しているため、関東周辺に転入された方、また、転出された方が多数いらっしゃると思います。一人でも多くの方に同窓会に出席して戴きたいと考えておりますので、同窓生、同級生の動向をご存知の方、また、関東支部以外の同窓会会員の皆さん方にもふるって参加して戴きたいと考えております。

宿泊施設も用意しておりますので、参加希望者は関東支部役員に氏名、住所等の連絡先をご一報ください。

高知県立須崎工業高等学校同窓会関東支部役員名簿

支部長	堀内 靖博
副支部長	山本 義雄
副支部長	茨木三智夫
会計	福井 幸正
会計監査	山本 治則
幹事	板橋昇八郎
幹事	逸見 悦子
幹事	苅部 幸子
幹事	原口英紗子
幹事	岡本 仁一
幹事	川西 利通

さい。より詳細な内容(会場案内図等)を記載した開催通知を送付いたしますのでよろしく願います。

同窓会会報「にしきうら」が会員の皆さん方のお手元に届くのは、十二月ごろになると思いますが、まだ、開催までには十分時間が有りますので、会報をご覧になった方は、同窓生、同級生とお誘い合

せのうえ、ぜひご出席ください。

須工同窓会関東支部総会を成功させるために、堀内支部長以下役員一同、一丸となつて取組んでおりますので、同窓会会員の皆さん方のご協力を重ねてお願いいたします。

現在の関東支部の役員体制は次のとおりです。お気軽にご連絡ください。

年降れば母校恋し



昭和四十五年造船科卒

松田 建一

須工を卒業して三十三年にもなる。造船科卒でありながら、アメリカ文学研究という畑ちがいの道に入った私は、東京の大学で長いこと英語・米文学を教えていたが、平成八年に一念発起して帰郷し、現在、生まれ育った幡多の辺境・三原村に住んでいる。もちろん隠居したわけでも、遊び暮らしているわけでもない。人目の厳しい村に住み、そこを拠点に、自然と人間との調和をテーマにした写真家・ルポルタージュ作家として、取材・撮影・執筆に勤んでいる。

帰郷した翌年の平成九年に、わが村の過去と現在を写真と文章で表した、『光る風』を、その二年後の平成十一年には、アイヌ民族と四万十川流域を写真と文章で綴った、『カムイの歌』を、それぞれ高知新聞社から出版した。そして、この三月（平成十五年）に、北海道と沖縄の海に生きる人々を中心にした、『海の呼び声、地の果ての声』を、再度、高知新聞社から出版することができた。

金にはならないが、それだけに、やり甲斐のある仕事だ。よしんば、のたれ死ぬことになろうとも、悔いはしない。そう思わせるほど、時代は自然と人

間との調和を失って、経済・物質至上主義を薦進している。

時流の弊害は甚大で、環境破壊は言わずもがな、人々の心にも取り返しつかぬ歪を生じさせている。こうした現実、私の文化活動が警鐘を鳴らし、同時に、わずかながらも、希望の光を未来に見出す契機になればと願っている。

そのためには、ともかく作品を読んでいたかなくてはならない。平成十五年五月二十五日に初めて須工同窓会高知支部総会に出席した折も、その思いがしきりだった。

高知会館に集った六十五人の同窓メンバーは、若者二人を除き、ほとんどすべてが大先輩だった。私は柄にもなく緊張した。三十数年前に教えていただいた諸先生がおられた。第一期生もいる。歴史を感じさせる神聖な印象を受け、三作目の『海の呼び声』を売るなど、持った外だと憚られたが、同窓ゆえに読んでいただきたい、買っていただきたいと願う気持ちも強く、私は傍のキャリヤーに本を積んだまま、複雑な思いでテーブルについていた。

おもむろにビールに手を伸ばしたときだ、
「何しよるぞ、早よ売らんか。みんな待ちよるぞ。早よせエ、早よせエ」

と第一期生の吉岡豊延さんに叱咤され、私が逡巡すると、

「ええい、わしが売っちゃる」

と吉岡さんは言っ、キャリヤーを押しはじめた。それが呼び水となって、私は恩師のみならず、大勢の先輩たちと言葉を交すことができ、本も少なからず買っていた。そこには後輩を思う先輩たちの、たしかかな温みがあった。母校をいとおしむ切

いまでの心があった。

「わしがいま中学の校長をやっているもの、須工のおかげだ。感謝しちよる」

総会がひけたあと、居酒屋で先輩の林和夫さんが言った。

「先輩、後輩が力を合わせて、母校を盛り上げんと、のう。わしも頑張る。おまんも頑張りや、のう、頑張ろう」

相撲で鍛えた先輩の、澄んだ野太い声に、札町にあった古びた木造校舎がありと思ひ出され、私は「はい……はい」と力強くうなずきながら、「年降れば母校恋し」と心でしみじみつぶやくのだった。

（写真家・ルポルタージュ作家）



流氷を押し退け、網上げに入ったスケソウ船（第十五佐和丸）
—『海の呼び声、地の果ての声』より—

高知支部だより

昭和二十八年造船科卒

岡林 幸保

全国各地で御活躍の須工同窓会員の皆様方、ご機嫌如何ですか。益々御健勝にて、お過ごししの御事と存じ上げ、お喜び申し上げます。

本年度の高知支部総会は恒例に依り、五月二十五日に高知県庁前の高知会館で催しました。

本年度の支部総会には多数の会員の出席を願ひ、秋山正元支部長（昭和三十年電通科卒）を先頭に、支部役員、理事が夫々の地域、職域の会員へ出席の呼び掛けをすると共に事務局より、一五四〇名の会員にハガキを出させていただきましたが出席者は来賓を含めて六十五名でした。

この数は例年の如くであり、出席して下さる会員は、新顔の会員も四・五名見受けられるが、殆ど毎年同じ会員の方達ばかりであると云つて過言ではなく、これはやはり毎年開催しているからではないかと役員の一入として反省しているところであるが、同窓会員の多くが、同窓会という会に関心がうすらいで来ていると思われてならない。

会議は、簡井賢明（三十年丁）氏の司会進行で始まり、物故者黙祷、来賓紹介、秋山支部長の挨拶、来賓の祝辞を頂戴したあと、議長選出に移り、林和夫氏（四十一年丁）を議長にして議事に移り、事業報告、会計報告、次年度事業計画等、異議なく順調にすすみ、其の他の議事で、ある会員から七月に浦ノ内湾で行われる須崎市主催の、ドラゴンカヌー大会に、須工同窓会高知支部名で出場してはどうかとの発言があったが、出席者の大半の者が、どのよう

な行事であるかあまり理解している者が居なかった。

注（ドラゴンカヌーは須工造船科で建造して、須崎市へ寄贈したものである。これは須崎市の活性の為に役立つものは何かないかと考えた須工造船科の山崎吉広先生の発案により、カヌーを建造してカヌー大会を開催する運びになったと聞いている。）

カヌー大会参加については、発言者にまかすと云うことで、議事としてとり上げたが細かい説明までには至らなかった。

議事も無事終了し、懇親会に移り、和気藹々の内に閉会となった。

追記

懇親会に入る前に一人の人物が紹介された。その御人は昭和四十五年造船科卒で写真家として活躍している、松田建一さんという方であった。

松田さんは今、地球上の自然破壊や環境汚染など

の問題にとり組み、自然と人間の共生を求め、そのあり方はどうあるべきかを探求しています。松田さんの著者「海の声、地の果ての声」を会員の皆様も是非、読んで下さい。

拙文で申し訳ありませんが高知支部だよりとします。各会員の皆様の益々のご健勝をお祈り致します。

須工同窓会高知支部総会へのご案内

【恒例によりまして、いつもの處で、いつものように開催します。】

日時 平成16年5月25日 18:00より(母校開校記念日)

場所 高知会館 (県庁前電車道南側 電話088-823-7123)

会費 一般¥5,000

平成14.15.16年卒業生と女性 ¥3,000

年齢や性別にかかわらず、多数の皆さんのご参加をお待ちしております。

高知支部以外の皆様のご参加も歓迎いたします。

支部長 秋山正元 電話 (088) 845-1486



平成15年度 第18回 高知県立須崎工業高等学校同窓会高知支部総会

(平成15年5月25日 於 高知会館)

「恩師・田原先生の 逝去に思う」

昭和四十一年化学工業科卒

林 和夫

平成十五年八月十七日午後、息子さんから親父が手術後の意識が戻ることなく死去したとの緊急な知らせがあり、あまりにも突然の訃報で、私は先生の「死」という現実が実感として伴わなかったことでした。

しかし、三日前に相撲部の先輩から、田原先生が高知市内の病院で緊急手術をして入院しているのと一緒に見舞いに行こうと連絡があり、行くと集中治療室のベッドに横たわる先生の姿がありました。前日の手術の影響で声をかけられる状態ではなかったのですが、顔色も良く静かに寝ているという感じで、先輩とも意識が戻るのは何時になるだろうかと話し病院を後にしたことでした。

田原先生は数年前に病に倒れ、体に障害が残りに入院生活を送られていたが、車椅子での行動ができ言葉などには不自由していなく、相撲部のOB達と一緒に見舞いに行くと昔話に熱が入り、何十年も昔の相撲大会や練習のことなどを訥々とした口調で話されたことでした。

大会での教え子達の取り組み、勝負の内容、心理状態や教え子達の親御さんの心情までも詳細に思ひ出し解説してくれたり、厳しい練習の内容や各種大会への出場の苦労とエピソード、相撲部を物心共に支えてくれた須崎の応援者の方々、須工の先生方との交流などについて、昨日の出来事のように思いだ

し懐かしむように話され、さらに教え子達にその場面場面での指導者としての心境などを教えるように語る姿を忘れることができません。

昭和二十六年に須工相撲部を創設した田原先生は、本場の裸一貫のスタートであったと思われませんが、幸い須崎は元来相撲の盛んな土地柄で古くから行われていた「須崎の火鎮祭相撲」には、県内外はもとろ大相撲の力士や全国的な選手達が出場し、大観衆の声援と熱戦が繰り広げられたと聞いております。この大規模な相撲大会を開催する須崎の有志の方々には「相撲」に対する格別な思いがあり、須工相撲部を応援する態勢が自然にできても不思議でなかったことでしょう。

このような状況の中でも、田原先生は毎日「まわし」を締め部員一人ひとりに練習をつけ、教え子の



故 田原敏雄先生

頭が当たる胸からは血がしたり落ち、汗と血にまみれた「ぶっつき」練習を欠かすことがなかった。県内の相撲強豪高校に追いつけ、追い越せを目標に日々練習に邁進していく熱意と指導姿勢により、早くも二、三年後には成果をだしております。

昭和三十年の全国高校選抜相撲大会が宿毛市で開催され、団体と個人のダブル優勝という輝かしい成績をなすとげ、全国の高校相撲界に「須崎工業高校相撲部強し」の印象を与えた。

昭和三十三年には大阪で行われた全国高等学校相撲選手権大会（インターハイ）で悲願の全国一の優勝、さらにこのメンバーは全国高校相撲金沢大会でも団体、個人、最高得点と本場の完全優勝をも成し遂げ、「須崎工業高校相撲部」の名前を全国に名実共不動のものとしてくれた輝かしい年でありました。

高校相撲の最高峰での優勝は選手達はもちろん、田原先生や母校、地元須崎の方々にとっても最高の喜びであり、須崎市民あげての優勝祝賀パレードや祝賀行事が繰り広げられたと聞いております。その後も各全国大会での団体、個人の優勝や上位成績は何度もあり、先生の須工相撲部にかける「情熱」はとぎれることはありませんでした。

私は、田原先生に一年生時だけの指導を受けたのですが、いろいろな意味で私の教師としての基礎的な部分は、この一年間にあっと思っております。昭和三十一年一月三日に全国高校相撲新人大会が地元須崎の富士ヶ浜特設相撲場で、開催され、地元の大い声援を受けて私達は団体優勝を飾ることができました。それも決勝戦が大阪の大鉄高校で、コーチが須崎出身の大先輩（故人）であり田原先生を大変尊敬している方であった。いわば田原先生の仲間が相

手で地元須崎に「縁」のある学校同士となり、本校が勝ったのですが相手コーチからも祝福の言葉をかけてくださったことが今でも印象に残っております。この大会へ向けて、厳しい練習が続くと共に冬休み中でしたので、地元の先輩はもちろん県省中の先輩達も胸をだしに来てくれたのですが、私達部員は小雪の舞う寒い日もあり気候と先輩達との稽古に閉口したことでした。

そんな状況でも田原先生は、何時もと変わらぬ指導姿勢であつたし、大会中にも特別の指導もありませんでした。私達選手三人は予選から決勝戦までで一失点という素晴らしい内容で栄冠を獲得できたのです。地元観衆の大喜びと声援の中でも先生は落ち着いた態度で教師としての姿勢を見せていたし、私達選手も高校生として、礼儀を重んじる相換選手として表彰式などに臨んだことでした。

昨今は優勝時になりふりかまわず大騒ぎするのが目につきますが、田原先生の指導姿勢は、まず「高校生」として「相換選手」としてのマナーを語らずして教えていたと思いますし、相換の先生ではなく教師としての信念ある言動を貫く人であつたと、今でも忘れることはありません。

入学試験時に田原先生の自宅に泊めていただきお世話になったのが田原先生との最初の出会いで、印象は「やさしそうな先生」だと感じたことを思い出します。しかし学校の先生は教師としての存在感相換部の指導者としての姿勢を貫き、言葉では言い表せないような「怖さ」と「尊敬」は生徒としてのあこがれを持ったことでした。

田原先生は、親しみのある言動で生徒とも接していましたが、私達からはきやすく話しかけるとい

う先生ではありませんで、相換部の練習時においても大きな声や体罰的な指導は一切なく、椅子に座りじっくりと見ている中で、一言一言を生徒の心にしめるように指導してくれ、それを「ハイ」と返事をするのが私達の態度でした。

私達相換部のOB一同は、そろって「怖い」先生であつたと言いつつ、親しみを持って敬う「恩師・田原先生」なのです。今でも忘れることのないエピソードに、一年生時の夏の合宿練習を学校で行っていた時で十数名の相換部員、国体選手の混じる社会人や大学生などのOB指導者十名近くが集い厳しい練習が毎日行われていました。

その合宿中の中日頃に田原先生が何らかの会があるとかで不在の時、中心的なOB指導者が息抜きに皆でソフトボールをやろうと言うことになり、楽しくレクリエーションプレーに熱中していましたが誰かが「田原先生が帰ってきた」と声を出した瞬間に、全員の楽しそうな顔と態度が一変緊張し、何とも言えないような不気味な雰囲気になったのです。

そうこうするうちに先生が近づいてきました。全員が誰にも言われることなく「横一列」に並び、「まわし」姿でボールやバットを持ったまま直立不動の態勢をとりました。「まわし」の中味は覚えていませんが先生の許しを得ることなく、練習をさぼった勝手な行動であり、全員が顔を上げるのができず大きな声ではなかったのですが、とにかく「怖く」皆が息を詰めて指導を聞いたことでした。

今でこそOB達とそのときの状況を懐かしみ笑い話として出てきますが、先生と同年配ぐらいの先輩や高校一年生の私達が「まわし」姿で同じように指導を受けたこと、指導後の練習は皆が一声も出さな

とができず、先生の姿をチラチラ見ながら黙々と続けたことは忘れることができません。この出来事一つをとっても田原先生の「教師としての姿」、相換を「指導する姿勢」を思い出します。

私達相換部の教え子一同は、田原先生への思いと感謝の気持ち忘れられることはありませんし、今の自分たちがあるのは「須崎工業高校」であり、「恩師・田原先生」であるという事実を抜きに考えることはできません。

田原先生への想いは、相換部の教え子達だけでなく、他の卒業生の方々にもあろうかと思いますが、この文面にて田原先生の「ご冥福」と「追悼」の言葉とさせていただきます。

合衆

新聞広告の依頼（協賛金）

にご注意下さい。

最近、須崎工業高校〇〇周年記念等の新聞広告を出すので、協賛金をお願いしたいとの勧誘がありますが、学校、同窓会では、一切そのような広告を出しておりませんので、お断り下さい。

本年度も、開校記念行事として五月二十七日に、記念講演と恒例の科別綱引き大会を開きました。森岡清同窓会長に「工業技術を学んで」をテーマでお話をいただきました。

在校生は、「自分の道は自分で切り開くことが大切だ」とか、「決してあきらめず、一生懸命に努力しなければ」、「森岡先生は、須崎工高に入ったから今の私の人生があるんだと言われた。私も五十年位たって、須崎工高卒を誇りに思えるように生きていきたい」等々の感想をしております。

その後、科別綱引き大会がグラウンドコンディションが悪いので、体育館で実施され、機械科二年が優勝しました。

平成十五年度理事会は、五月十日に母校会議室で開かれ、平成十四年度事業報告・会計決算並びに、平成十五年度事業計画・会計予算案が提案・審議され、承認されました。

平成十六年度総会日程を討議し、九月十六日、JA土佐くろしおを会場に開催を決定いたしました。二年に一回の総会ですが、ぜひ沢山の会員皆様の参加をお願い致します。

六・七月に支部等より御案内もあるかと思いますが、全会員の皆様に届きかねるのが実情です。御参加希望の方はぜひ、「にしきうら」に添付しております葉書に同窓会参加を記入の上、返送下さい。総会が近づきましたら、別途に連絡させていただきます。

体育祭も、第六回目となり十月十日（金）に開催し、電気・電気情報科黄組が優勝しました。

同窓会終身会費納入のお願い

同窓会の運営は、会則第7章会計、第21条に基づいて、会員の皆様からの入会金、会費、寄付金を持って充てていますが、その中でも卒業生からの終身会費が、主な財源となっています。

事務局におきましては、納入いただきました終身会費を積み立て、その利息で、活動資金の大半を捻出しています。

この実情にご理解戴き昭和53年以降の卒業生は、卒業の時点でほとんど納めてくれていますし、平成4年以降の卒業生は、卒業時全員納入いただけるはこびとなっています。

終身会費未納の皆様方には、（会報の中に郵便振り込み用紙をはさんでいます）同窓会活動を今後とも益々発展さすため、是非とも早い時期に終身会費を納入下さいますよう、ご協力お願い致します。

平成8年8月の総会にて終身会費の値上げを決定いたしました。1万5千円を納入下さい。



（卓球部練習風景）

平成16年度 同窓会総会及び懇親会のご案内

この度、平成16年9月に同窓会総会を開催します。下記の日程でご案内申し上げます。会員の皆様方の多数のご出席をお願いします。

記

年月日 平成16年9月11日（土）

総会 午後4時より6時

懇親会 午後6時より8時

懇親会会費 5,000円

場所 JA土佐くろしお 3階ホール
（須崎市大間本町14-26）

電話（0889）42-8001

平成14年度一般会計決算報告書

単位 (円)

項目	金額	備考
前年度繰越金	1,570	
新入生入会金	200,000	2,000円×100名
定期預金利息	72,000	
普通預金利息	106	
雑収入	48,293	総会黒字収入
特別会計補助	43,000	同窓会名義売り上げ代
合計	2,547,950	
支出	2,912,919	
会議費	62,090	理事会・その他
事業費	45,150	開校記念品代
	429,240	会報印刷代
	537,227	会報送料
	19,152	卒業証書用丸筒代
	31,500	タックシール代
	20,000	卒業生「調査用」ノゾキ代
	23,520	封筒代
通信費	24,025	
事務費	10,253	
旅費	271,700	
旅費	368,163	
支部分配金	795,550	
雑費	598	
雑予備費	0	
合計	2,638,168	
平成15年度への繰越金額	収入 2,912,919 - 支出 2,638,168 = 274,751	

平成14年度特別会計決算報告書

項目	金額	備考
前年度未償還積立額	34,182,950	
平成14年度納入額	1,755,000	15,000円×新卒117名
	75,000	15,000円×旧卒5名
合計	36,012,950	
一般会計へ補助	2,547,950	
合計	2,547,950	
平成15年度へ累積積立額	収入 36,012,950 - 支出 2,547,950 = 33,465,000	

監査報告

帳簿及び証書類等により監査の結果、金額その他については相違なく、
預金通帳・定期預金証書ともに帳簿に管理適正に執行されています。
平成15年4月24日

監査人 坂本 西 森



【収入】 平成15年度一般会計予算

項目	金額	備考
前年度繰越金	274,751	
新入生入会金	166,000	2,000円×83名
定期預金利息	32,000	
普通預金利息	200	
雑収入	10,000	
特別会計補助	2,045,000	
合計	2,527,951	

【支出】

項目	金額	備考
会議費	90,000	理事会・その他
事業費	37,740	開校記念品代
	440,000	会報印刷代
	30,000	会報送料
	560,000	卒業証書用丸筒代
	20,000	卒業生「調査用」ノゾキ代
	30,000	封筒代
通信費	35,000	
事務費	35,000	
旅費	210,000	
旅費	200,000	
支部分配金	803,230	関東 200円×297名 + 59,400円 + 中京 300円×153名 + 45,900円 + 京畿 400円×79名 + 31,600円 + 大阪 200円×399名 + 79,800円 + 高知 200円×943名 + 188,600円 + 香島 170円×194名 + 331,330円 + 福川 300円×121名 + 36,300円 + 福多 300円×101名 + 30,300円
雑予備費	0	
合計	36,981	
合計	2,527,951	

平成15年度特別会計予算

項目	金額	備考
前年度未償還積立額	33,465,000	
平成15年度納入額	1,695,000	15,000円×113名
	75,000	15,000円×5名
合計	35,235,000	
一般会計へ補助	2,045,000	
合計	2,045,000	
平成16年度へ累積積立額	収入 35,235,000 - 支出 2,045,000 = 33,190,000	

終身会費納入済者名

(平成14年10月から15年10月10日までに納入いただいた方々)

ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

生田直人	寺石幸司	下元雅之	＜昭和24年＞
池田川	中内平茂	高橋上	機 械 科
大川	中平田太之也	田上村	井 上 常 水
岡林	永面濱藤	田 辻 平	小 島 満 雄
古味	松原本	中 山 森	＜昭和33年＞
西原	味元岡	長 西 藤	機 械 科
嶋崎	森森本	藤 光 壬	青 島 勝 彦
嶋村	山山本	光 生 三	＜昭和36年＞
高橋	山山本	壬 好 岡	機 械 科
上中	山山本	森 岡 光	徳 廣 信 哉
岡本	和 田	森 森 森	＜昭和45年＞
澤澤	学工業科	矢 野 上	化学工業科
西島	岩井原	山 崎 下	石 山 道 行
鍋村	大岡岡	山 山 山	＜昭和51年＞
西森	岡澳尾	山 山 山	電 気 科
弘藤	片堅吉	山 山 山	北 岡 和 秀
細正	木木本	渡 部	＜昭和52年＞
松本	金高竹	造 船 科	機 械 科
宮崎	高竹中	赤 松 本	宮 崎 寛
明山	野橋弘	秋 本 比	＜平成14年＞
山 山	中田田	朝 池 上	機 械 科
	本宮森	池 上 氏	赤 崎 和 博
	安 岡	片 川 木	朝 比 奈 徹
		川 木 熊	出 間 川 裕
		三 島 杉	市 市 原 村
		谷 谷 谷	市 植 岡 崎
			岡 楠 野 田
			河 小 藤
			齋 藤
			章 弘

平成15年度 役 員 名 簿

役 職	氏 名	卒コード	科 別	備 考
相談役	田 辺 博 造	1S18-013	機 械 2 種	
〃	清 家 寛	1S18-010	機 械 2 種	
〃	寺 田 郁 雄	1S21-025	機 械 1 種	
名誉会長	橋 本 俊 彦			母校校長
会 長	森 岡 清	1S26-020	機 械	
副会長	岡 林 幸 保	1S28-038	造 船	
〃	下 元 征 夫	1S37-129	電 気 通 信	
〃	桑 名 隆			母校教頭
〃	井 上 耿 介	1S39-004	機 械	事務局長
常任理事	森 下 春 茂	1S21-019	機 械 1 種	
〃	井 上 健 弘	1S27-002	機 械	
〃	山 地 健 三	1S39-180	化 学 工 業	須崎支部長
〃	津 野 隆	1S41-090	造 船	
〃	梅 原 正 博	1S47-116	化 学 工 業	
〃	西 山 庸 一	1S48-090	造 船	事務局
〃	梅 原 俊 男	1S54-036	機 械	事務局
〃	山 岡 英 樹	1S57-034	機 械	事務局
理 事	田 村 武 夫	1S29-050	造 船	
〃	吉 村 功	1S21-081	機 械 2 種	
〃	坂 本 臣 三	1S25-009	機 械	
〃	秋 山 正 元	1S30-061	電 気 通 信	高知支部長
〃	野 並 允 温	1S30-080	電 気 通 信	大阪支部長
〃	中 西 安 男	1S32-023	機 械	
〃	松 浦 政 志	1S35-065	機 械	幡多支部長
〃	堀 内 靖 博	1S36-061	機 械	関東支部長
〃	沖 良 二	1S39-013	機 械	中京支部
〃	笹 岡 文 子	1S39-157	化 学 工 業	
〃	竹 田 友 一	1S42-042	機 械	
〃	戸 梶 昭 雄	1S45-149	電 気	
〃	坂 本 定 浩	1S54-009	機 械	
会 計	宮 崎 司	2H11-056	造 船	兼常任理事
監 査	坂 本 操	1S43-030	機 械	
〃	西 森 豊	1S45-151	電 気	
支部長	上 田 智 明	1S29-003	機 械	京滋
〃	沖 本 毅	1S33-012	機 械	中京

校歌

- 一、須崎工業高校の
教の庭に身と心
新天新地光明の
輝やくもとに勇ましく
日々鍛いぬく健児団
- 二、自然の暗示わが教
大平洋の荒波は
わが人生の活動か
さらに心の平穏は
波静かなる錦浦
- 三、工業報国理想とし
自主独立の精神を
いただき責務を怠らず
真理と正義重んじて
わが向上の道を逐う

各種証明書の発行について

(母校事務室からの伝言)

証明書が必要なときは、所定の証明書交付申請書(用紙は事務室に備付)を校長宛提出しなければなりません。

申請書には必要事項記入のうえ押印し左記金額に相当する高知県収入証紙を貼付してください。遠隔地からの申込みは事務手続に相当の日数を要しますので早目に申込みをしてください。又県外には高知県収入証紙は販売していないので、現金、又は郵便小為替を同封してください。

なお返信用の封筒には切手の貼付、住所、氏名、郵便番号をお忘れなくご記入ください。

手数料は次のとおりです。

卒業 証明書	一通につき四二〇円
成績 証明書	一通につき四二〇円
単位修得証明書	一通につき四二〇円
送 料	

送り先 千七百八十五三三

須崎市多の郷和佐田甲四一六七ノ三

高知県立須崎工業高等学校事務室

電話 (〇八八九) 四二一一八六一

FAX (〇八八九) 四二一一七五

証明書の件につき不明な点等がありましたらいつでも右記電話番号の証明係までお電話ください。

編集後記

毎年のことながら、各支部の役員並びに会員の皆様へ原稿をご依頼いたしましたところ、ご多忙中にもかかわらず心よく寄稿頂きありがとうございます。

会報「にしきうら」第二十八号を、お送りいたします。会報届け先不明者の住所等ご承知の方並びに住所・勤務先が変更になった方は、会報の折り込み葉書で事務局まで連絡下さいますようお願いいたします。

平成十六年度も会報第二十九号を発行予定しておりますので、ぜひ皆様のご寄稿をお願いします。尚、勝手ながら、原稿は九月五日までに事務局までお寄せくださいますようお願いいたします。

編集委員 山岡 英樹

会報「にしきうら」第二十八号

平成十五年十二月一日発行

高知県立須崎工業高等学校

発行所 同窓会事務局

有限会社笹岡印刷所

印刷所 高知県須崎市東古市町二番十六号

☎ (〇八八九) 四二一〇二四四番

資源保護のため再生紙を使用しています。